

平成 25 年度第 2 回浦安市児童センター運営懇談会会議録

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 平成 25 年 12 月 6 日（金）午後 6 時 30 分～8 時 00 分
- 開催場所 総合福祉センター 2 階 多目的室
- 出席者 7 名 委員名
 - （委員） 金澤委員（小中学校校長会）
 - 中島委員（民間有識者 NPO 法人 i ネット）
 - 橋本委員（青少年相談員連絡協議会）
 - 奥村委員・松良委員（子ども会育成連絡協議会）
 - 岡本委員（こども部保育幼稚園課長）
 - 岡部委員（こども部青少年課長）
 - （事務局） 鶴見課長（こども部こども家庭課長）
 - 東野：河野所長・岡崎・阿部
 - 高洲：吉田所長・鈴木・山口・飯沼
- 開会
- こども家庭課長挨拶
- 会長挨拶（金澤会長）
- 議 事
 1. 平成 25 年度前期事業報告について
 2. 平成 25 年度後期事業計画について
 3. その他
 - ◎議事進行（金澤会長）
 - ◎議題 1 について 児童センターごとに事業内容を報告した。
 - ◎議題 2 について 児童センターごとに事業計画を報告した。
 - ◎その他
 - (1) 18 歳を超えた利用者について（東野児童センター）
 - ・児童館は、18 歳未満が利用対象となっているが、以前から利用している 18 歳を超えている子がいる。年齢だからといって無下に断ることもできない。ルールを守っていくことを条件にボランティアをしてもらうことも考えられ、その子の居場所となっているのなら見守っていきたいと思っている。
 - (2) 盗難について（高洲児童センター）
 - ・昨年度、マンガの大量紛失があったため、荷物は図書室に持ち込まないようにした。今度は、6 月にロッカーからバッグに入れていた携帯ゲームが盗まれたため、7 月から事務所で貴重品を預かるようにした。8 月にもロッカーか

らバッグごとお昼の時間帯に無くなった。そのため、内部で対策を話し合い、夏休みなど利用者が多いお昼は、職員を増やすなどの対策をとった。勿論、声掛けも頻繁にして、利用者にも強く意識してもらおうようにした。その後は、荷物の紛失はないので、現状では、完璧とは言えないまでも一応職員も気を付ける体制にしている。

(3) 児童センター利用カード忘れについて（共通）

児童センターを利用する場合には、市内の方なら利用カードを作り、バーコードリーダーを通して入館するシステムになっている。また、利用カードを忘れた方（持ってこない方）や市外の方は、台帳に名前等を記入している。

どうしたらみんなが利用カードを持ってくるようになるのか、いいアイデアがあったらアドバイスをお願いしたい。

質疑応答・意見・感想

(1) 18歳を超えた利用者について

Q：18歳を超えた利用者に対して来ないでと何で言えないかという背景や判断した理由は。

A：児童センターの居心地が良いのか居場所となっていて、普通なら18歳になれば来ないと思うが、居場所はここしかないようである。来館できない年齢で、機械的に切るのは簡単だが、本人はそれがわかっているのに来館していることを理解してあげたい。

委員：児童センターでは年齢の範囲が広く、児童という枠組みを超え、大人になると引き継ぐ先が難しいのはわかる。施設によっては、次の人を受けるキャパを超えてしまう場合があり、どこかで切るのが誠意かと思う。そういう考え方があることを伝えたかった。

(2) 児童センター利用カード忘れについて

Q：データをどう活用しているのか。

A：入力したデータは、こういった会議の資料だけでなく、事業を打っていくための資料にもなる。

Q：利用者としてはデータをどのように使われているのか知りたくなる。

資料のためでなく、例えば、画面上に「ケアが必要」などしるしを表示し、スタッフが対応できるようにする仕組みなど。ただ統計だけなら、年齢と地域に丸をつけるだけでも良いと思う。

会長：よりよくするための一助として、どんな利用法があるのか考える余地はあるという意見でした。

(3) 盗難について

Q：高洲では、去年は本がなくなり、今度は物がなくなるということで、いろいろ手立てを講じていて、その後はないようだが、手を尽くしたということか。

A：完璧だとは言えないが、事務所の内側に衣装ケースを置いて、番号を付けた袋で間違いがないように管理している。2回盗難があった以降は特にないが、試行錯誤の状況。こどもたちも私たちの動きをよく見ている。今後も手を抜かないように、声掛けもよくして見守っていく。

Q：推測だけでなんだが心当たりはあるか。

A：ロッカーには名前がないので、誰の荷物かわからない。違う子の荷物をさっと取っていてもわからない。手馴れているのか、職員が手薄な昼休みや混雑している日が狙われているのかもしれない。

会長：よく状況を正確に判断して行っている。抑止力となるような考え方と起きないようにする対策を十分にする。

(4) 児童センターの利用者について

Q：それぞれの事業に関して創意工夫を生かしていただき、定例の事業にプラスし、新規のことも考えて行っているにもかかわらず、多少利用者の数が減り気味だということで課題ととらえているようだが。

A：利用者は、高洲では初年度は異常に多くて段々下がってきている。今回盛り返している。波があるようで、何か事業をやったからと言って、その年に来るとか来ないとかの話でないような気がする。

Q：ただ単に多く利用することを目指しているのか、利用するに当たっても高洲と東野は面積的に規模も違うことから、それぞれにこども達の遊ぶスペースとしては適正な人数があるような気がする。そういったことはどう考えているのか。

会長：利用者の減少こそが課題でもっと多くしたいという考え方なのか。

A：基本的には、たくさんのお子さんが来ていただくのが一番良いと思うが、減ったからといって手だてがあるわけでない。いろいろ事業をやっているのだが、その年は来なかった、今年は増えたということで、その原因はよくわからない。

A：東野は、児童センターの中では大型で、いくつも部屋があるし恵まれている。工作室を来年は活性化させたい。

委員：地域の利用率を見ると東野児童センターでは東野地域が56%、高洲児童センターでは高洲地域が70%利用されている。こども達が自ら行動してどこかに行こうとした場合の行動範囲は、だいたい半径700mぐらいと言われている。長期的にこの利用地域をどのようにしていくのかを考えないといけない。

Q：高洲児童センターの市外者の利用数が多いのは。

A：夏休みに高洲の祖父母の家に来るこどもの利用が多い。また、近くに私立の暁星幼稚園があり、そのお子さんで市外からの方も多し。ママ友で車で連れ立ってくる方も多し。

Q：事業を見ていると幼児は別として、夏休みを含め休みの日を中心に事業をやっているようだが、平日の小学生に対するものは。

A：平日は特になし。

Q：こどもが一回帰って友達と遊ぼうとした時に目指してくるものがあるとなしとでは違うのではないかしら。

会長：行ってみたくなるような魅力がどうあるかということ。

A：こども達が帰ってくる時間が意外と遅し。学年によっても帰ってくる時間もまちまちで、4時30分の帰宅放送を流しているため時間がない。

会長：いろいろな形で活動が活性化され、積み重ねを踏まえながら、いくつか課題が出てきている。今後ともより良い運営を目指しながら、より良い活動をして行ってもらいたい。